

仙台教会の歴史シリーズ その3
仙台開拓伝道のキックオフイベント 1952

はじめに

日本で宣教を開始したバプテスト派の最初の宣教師は、アメリカン・バプテストの N.ブラウン夫妻と G.ゴープル夫妻で、1873年（明治6）のことでした。遅れること16年、1889年（明治22）に南部バプテストの宣教師として J.W.マッコラム夫妻と J.A.ブランソン夫妻が来日します。アメリカン・バプテストと南部バプテストは、奴隷制度に対する立場の違いから袂を分かつことで成立した教派ですが、日本における宣教の現場では協調関係を大切にし、宣教活動の受け持ち地域についても協定をし、南部バプテストは主に九州を伝道地域とすることになります¹。

やがて昭和の時代となり次第に国家が戦争への道を歩み始めるとともに、全体主義的な政策が強化され、宗教団体の管理・統制のための法律が作られ、国内のプロテスタント各派は合同を強いられます。結果として「日本基督教団」が成立し、プロテスタント各派は全てその中に統合されます（1941年・昭和16）。

敗戦後の早い時期に、南部バプテスト系の諸教会は日本基督教団から離脱し、「日本バプテスト連盟」を設立します（1947年・昭和22）。アメリカン・バプテスト系の諸教会は日本基督教団に留まるグループや、離脱して新たに「日本バプテスト同盟」を結成（1958年・昭和33）するグループに分かれました。なお、南部バプテストとアメリカン・バプテストによる宣教担当地域に関する協定は自然消滅しますが、戦前からの両派の協調関係は戦後も保たれていました。

1. アメリカン・バプテストのお世話になる

仙台教会の歴史を記録した年表は何種類²かありますが、グラント宣教師一家が仙台に引っ越して来られた時期を、いずれも1952年（昭和27）の「秋」としています。もう少し時期を絞り込むとするなら、次のような理由から「11月」と考えていいのではないのでしょうか。

グラント宣教師一家は12月15日に、堤通98番地にロティー・ムーン献金で新築された自分たちの宣教師館（地図参照）に入居します。実はその前の1カ月間は、尚綱学院で教鞭を執っていた二名のアメリカン・バプテストの宣教師たちのお世話

になり、彼女たちが生活している宣教師館に泊めてもらっています³。その宣教師館は尚絅学院八幡校地に戦後新築されたものです⁴。間取りは不明ですが、恐らくこの宣教師館のゲストルームにグラント一家 4 名は滞在させてもらったのでしょう。アメリカン・バプテストの宣教師館にお世話になる以前に、仙台の別な場所に一家が一旦引っ越して来ていた可能性も理屈としては成り立ちますが、しかし全く現実的ではありません。ですから、一家 4 人は 11 月に東京から仙台に引っ越して来られたと判断するのが妥当でしょう。

2. 11 月の特別伝道集会にむけて

もちろんグラント師自身は、11 月以前に何回も来仙し開拓伝道の下準備の活動を行う必要がありました。

一つは 11 月に計画した特別伝道集会の準備です。期日は 11 月 7～11 日（金～火）とする資料⁵や、3～5 日（月～水）とする資料⁶があり残念ながら確定できませんが、11 月の初旬から中旬に、3 日間ないし 5 日間の特別伝道集会を、仙台市公会堂の会議室を借りて開催しています⁷。会場の借用手続きは何カ月か前に行われるでしょうし、同僚の宣教師や牧師を講師として招き、さらに連盟事務所職員に来仙してもらい映画（「王の王」という伝道映画）⁸を上映するためには、事前にこまごまとした調整や打ち合わせも必要です。また集会案内のチラシを作成・配布し、あるいは街宣車を走らせるなどして広く集会開催を知ってもらい、多くの方に集まってもらうためには、最低でも開催 1 ヶ月前には足を使った地道な取り組みが行われている必要があったでしょう。

3. 仙台開拓伝道のキックオフイベント

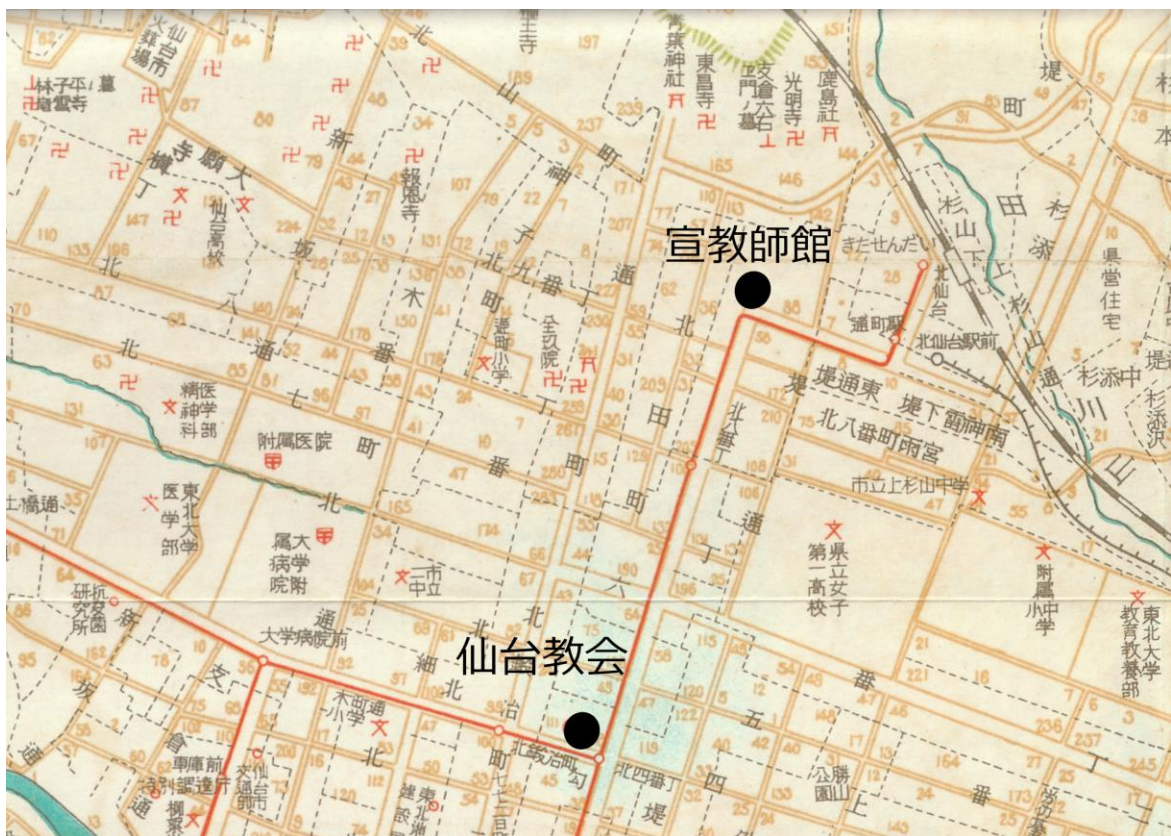
二つ目として、グラント宣教師一家が 1 ヶ月という長期間にわたりアメリカン・バプテストの宣教師館に滞在させてもらうためには、当然のことですがその交渉や依頼や打ち合わせを、時間的に十分余裕をもって丁寧に行う必要があったでしょう。

更にもっと早い時期から取り組まなければならなかったのは、自分たち用の宣教師館の用地探しです。これはかなり難航し 6 カ月以上かかっています⁹。土地の購入後は、建築業者の選定や、業者が決まれば建築の具体的な打ち合わせも不可欠です。最も重要なこととして、日曜日の礼拝場所を確保することも必要でした。これに関

しては、幸いにも仙台 YMCA をお借りすることができました¹⁰。こうした諸々の課題に的確に対処するため、グラント師は 11 月の何カ月も前から幾度か来仙し、何日間も滞在し、仙台での開拓伝道をスタートさせるために、孤軍奮闘して下準備に当たっていたと考えられます。

そしてグラント師が企画し準備した 11 月の特別伝道集会に合わせて、グラント宣教師一家がいよいよ仙台へ引越してきます。つまりこの特別伝道集会から、グラント宣教師夫妻による仙台における福音宣教の働きが本格的に開始されたのです。この特別伝道集会はお二人にとっては、仙台での開拓伝道のいわば「キックオフイベント」¹¹だったと言えるでしょう。

(文責：小林孝男)



「大仙台市地図(昭和 27 年)」より

赤線は市電路線。宣教師館建築時には教会の場所は未定であった。

¹ 2024年現在、日本バプテスト連盟に加盟する教会・伝道所は316あるが、約三分の一が九州地方にあるのは、このような歴史的背景からである。

² 「仙台バプテスト伝道所沿革」(1955年初期に作成)、「献堂 20年のあゆみ」(1974/11/10 発行の『献堂二十周年記念文集』に収録)、「献堂 25年のあゆみ」(1979/11/11 発行の週報)、「献堂 30年のあゆみ」(1984/11/11 発行の週報)、「仙台バプテスト教会の沿革」(1995/03/26 発行の『献堂四十周年記念誌』に収録)、「仙台バプテスト教会年表」(2015/10/15 発行の『60年のあゆみ』に収録)。それぞれを吟味するといずれにも不正確と思える箇所がある。特に『60年のあゆみ』収録の年表は、印刷のずれなど問題点が多々ある。

³ 尚綱女学院100年史編纂委員会『尚綱女学院100年史』(尚綱女学院、2002)、679頁。ロバータ・L・スティブンス『根づいた花』(キリスト新聞社、2003)、巻末28~29頁。この二人のアメリカン・バプテスト宣教師とは、アメリカン・バプテスト海外伝道協会(ABFMS)から尚綱学院へ教育宣教師として派遣されていたヴァイダ・ポースト(尚綱在任1949~1961年、高校で英語担当、独身、当時55才)と、ビューラー・マコーイ(尚綱在任1952~1979年、尚綱学院の中学・高校・短大で英語担当、独身、当時37才)を指すと思われる。

なお、『主の息吹の中で』、18頁に「二人のアメリカ人バプテスト宣教師」と訳されている箇所があるが、American Baptistは教派名なので、ここは「二人のアメリカン・バプテスト宣教師」と訳すべきである。

⁴ 『尚綱女学院100年史』、419、483頁。落成は1950年(昭和25)、校地整備のため1984年(昭和59)に取り壊されている。

⁵ 資料(1955/03/25_仙台バプテスト伝道所沿革と教会員名簿)

⁶ 資料(2020/08/??_國分登氏の証・仙台教会の紀元)

⁷ 『ワース・C・グラント師の日本観』、297頁。資料(1955/03/25_仙台バプテスト伝道所沿革と教会員名簿)。資料(2020/08/??_國分登氏の証・仙台教会の紀元)、1頁

⁸ 『ワース・C・グラント師の日本観』、297頁

⁹ 『主の息吹の中で』、19頁

¹⁰ 『ワース・C・グラント師の日本観』、297頁

¹¹ 新しいプロジェクトや大型プロジェクトを始める際に、最初に行われるイベント。そのイベントを通してプロジェクトの目標や目的を確認し、メンバーの士気を高める。